令和4年度 ノースアジア大学・秋田栄養短期大学卒業証書授与式
学長告辞

本当にあたたかい日が続いていますが、今日、このすばらしいときに、本学を卒業していく諸君に、心からお慶びを申し上げます。また、ご出席されている皆様にも、ご父母、教職員の方々にも、この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。

皆さんに話をすることも、これが最後になるかも知れません。これからどう生活して行けばよいか、そういう話をしてみたいと思っております。
当たり前のことですが、人の人生にとって大切なものは、時間です。人生は時間そのものといってもいいと思います。何に時間を使うか、時間をどう使うかが人生なんです。
藤井五冠という、将棋の名人がいますね。しょっちゅう将棋のことを考えている。そう言っています。一日中ですよ。将棋で負ける。何手目の、あの指した駒がまずかった。そんなことを、夕食を食べながらも考える。寝る時も、夢の中でも将棋を指している。私もアマチュアですけれど、将棋をしていたからよく分かります。
そんなふうに、人は好きなことに、やりたいことに時間をかけるんです。
諸君は、卒業して、会社や役所などに勤めますね。だから、仕事を好きになってほしい。仕事以外のことにうつつを抜かしていてはダメです。
仕事が好きでなければ、成功者にはなれないんです。仕事は諸君に与えられる、人生で一番大切なことです。

孔子が、「これを知る者は、これを好む者に如かず」と言っていますよね。その後にも文章が続くんですけれども、一番大事なところはここです。
いくらいろいろ知っていたって、それが好きな人には負ける。そういう意味です。
本田宗一郎という人がいますね。ホンダモータースの社長だった人です。世界のホンダです。この人は、機械をいじるのが大好きな町の自転車屋さんです。日本で初めて自転車にエンジンを付けた人なんです。初めてオートバイを作った人。
払い下げを受けた小さなエンジンを自転車につけて、自転車をこがなくたって、エンジンで自転車が走れるようにしよう、そう考えて、本当に、寝食を忘れて取り組んだ人なんです。
少しもつらいとは思わなかった。そう、本田はのちに言っている。おもしろいことをやっているんですからね。
そうやって一生涯、機械と取り組んで過ごした人です。やっぱり、好きだということは、すごいことなんですね。
諸君は会社に行く。役所に入る人もいるでしょう。だけど、早く仕事が終わらないかと思って、しょっちゅう時計を見る。早く金曜日にならないかと思う。こういう人は、仕事では成功しません。

では、どうしたら、仕事が好きになれるか。ここが大事なところなんですが、どんなつまらなそうに見える仕事でも、取り組み方、仕事に向かい合う姿勢で、好きになれるんです。問題はこちら側にある。
銀行に入った人が、よく、「仕事がつまらない」といいます。最初にするのは雑用です。融資なんかやらせてもらえない。新人だったら当然です。銀行だけじゃないんです。どこも一緒です。
どうしたらそういう仕事を好きになれるか、それは、こちら側がどう取り組むかにかかってくる。姿勢です。それによって、どんな仕事もおもしろく出来るんですよ。
トヨタという自動車の会社では、社是で、経営方針ですね、「昨日までのトヨタと戦うんだ」ということを言っています。社員が、昨日までの古いトヨタと戦って、新しく生まれ変わる、そういう意味です。そして、自分も変わるんです。昨日までのトヨタでは、今日はもう役に立たない。社会は激しく変動します。そんなふうに考えるんです。5つの「何故、どうして？」ということを仕事で言っています。そこが取り組む姿勢としては本当に大切です。疑問を持つんです。

私は前に、検察庁にいたんですが、放火事件で、犯人が否認していた事件を取り扱っていたことがありました。決定的な物証はなかったんです。
二十歳を過ぎたばかりの青年が、この人は失業中でした。金もなく、深夜に家の近くを徘徊していたんですが、前に就職を断られた畳屋の前に来たとき、そのことをふと思い出し、とっさに持っていたライターで畳屋に火をつけたという事件です。
警察の捜査の段階では、「自分は火をつけていない」、と否認する。その後に認め、検察庁で勾留されると、また否認した。そして認め、公判の第1回で、また否認するんです。第1回公判が終わった後、歩きながら、どうしてそういうふうに供述が転々とするんだろう、と考えていました。そんなことを考えながら、家に帰っても、風呂に入っても、考え続けたんです。
そのころ、何人もの身柄事件、つまり逮捕勾留されている被疑者・被告人を抱えて、精神的にも疲れ切っていたんです。
解答のない問題を解いているようなもので、大変つらい状況でした。でも、そうしているうちに、そういう事件の処理に、少しずつ生きがいというものを感じるようになっていったんです。
それは、ある晩、その事件のことを考えていた時、思いついて、深夜の放火があった同じ時間帯に、彼が歩いたであろう道を、私も歩いてみました。犯行現場まで行ってみたんです。今まで、捜査報告書や調書――つまり、紙の上で理解していたんですが、そのとき、現場に行って初めて、彼が転々と供述を変えてきた、自白と否認を繰り返してきたわけが分かるような気がしたんです。
それは、寒い日の晩でした。風の強い日でした。
結局有罪になりましたけれども、自分の見通しが間違っていなかった。それが分かったんです。

どんな仕事だって、取組みようによっては楽しくなる。仕事の中にのめりこんでいくことになる。そうなってほしいんです。そうすると、仕事は投げやりではなくなります。職場でも大事にされる。
仕事に関心を持たなければ、仕事はうまくいかないし、失敗の連続になります。結局、月給泥棒と言われることにもなります。
職場を辞めて、転々としている人を見かけます。そうなってほしくないんです。

諸君は、若い。まだ未完かもしれません。しかし、秘められた力がある。どんなに苦しいことがあっても、決して諦めないで、乗り越えていってほしいと思います。
今日の卒業生の中から、いろんな分野で、大変な成功者が出てくることを期待しております。
諸君は、これから一人で生きていく。お父さんやお母さんの力を借りることができないという、そういうことであります。しっかりと、自分の力で人生を歩んでいただきたいと思います。
みなさんが、やがて大成され、人生を立派に過ごされることをお祈り申し上げたいと思います。

本日は、本当におめでとうございます。

令和5年3月12日
ノースアジア大学
秋田栄養短期大学
学長　小泉　健